

京の図書館ものがたり

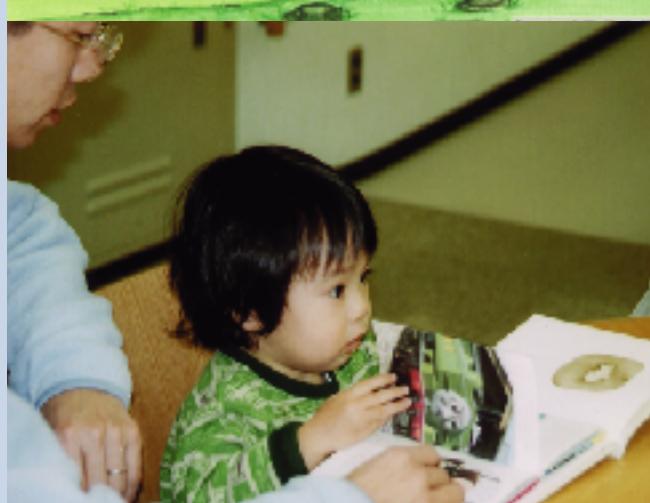
きょうと

京都市図書館情報誌

vol.2

平成14年11月発行

夢ふくらむ図書館に



目次

市長インタビュー	2
読書で人生を豊かに	
図書館小特集	3
新システム紹介	4~5
京都市図書館紹介	6~7
醍醐中央図書館、左京図書館	
図書館コラム	6
司書というお仕事	
お知らせ	7
京都市子ども読書活動振興市民会議 第2回会議を開催	
利用者の声	8
編集後記	8
京の図書館は新たな成長を始める	



子どもと本とを結びつける かけはしになりたい! …と、考えています。



●ブックリスト <本のもり>

今年から子ども読書の日（4/23）が定められたのを記念して作った子どもの年代別のブックリストです。赤ちゃん編～中学生編まで、全部で6種類。読書を始めるきっかけになればと願って作りました。リストも、リストに載っている本も、各図書館にあります！

「ブックリスト <本のもり>」

●お楽しみ会

各図書館では、本の世界をより楽しんでもらえるよう、また、数多くの本と出会ってもらえるように、読み聞かせ、大型紙芝居や次のようないろいろな行事を行っています。

ブックトークってなあに？

ある決まったテーマのもとに、何冊かの本を紹介していくことです。本のなかのひとつのお話をしたり、さし絵をみたりします。



パネルシアターってなあに？

フランネルの布地をはったパネル板に、不織布で作った絵人形をはりつけたり、はずしたりするはり絵あそびです。お話をだけでなく、歌あそびもできます。



ペーパーサートってなあに？

平面的な絵の人形劇。うちわを小さくしたようなもので、両面に同一人物の動作の絵があり、それをひっくりかえすとその人物が動いているようにみえます。

ストーリーテリングってなあに？

本をみないで、語るお話の会。耳から聞くお話は、豊かな想像力を育てます。



お楽しみ会には、年齢制限はありません。子どもも大人もどんどん参加してください。京都市図書館は、この他にも、子どもと本とのより良い出会いを応援するため、いろいろなくふうを重ねていきたいとおもっています。

~市長インタビュー~

▼市長は毎日超多忙な日程をこなされていますが、お好きな読書の時間もとれないのではないですか？

確かになかなか自分の時間がとれない毎日ですが、公務を終えて家に帰り、一段落してから、就寝前、僅かな時間でも読書を楽しむようにしています。また時間が許せば、私の健康法の一つの水風呂につかりながらの一風変わった読書を楽しんだりもします。私は、生来の本好きですから、何も考えずに没頭できる読書タイムが日々のストレスの解消法になります。頭を空っぽにしてリフレッシュするために本を読んでいるといつてもよいくらいですね。

好きなジャンルはありますか？

ジャンルを問わず濫読するというのが以前からの私の読書スタイルです。仕事の必要上もありますが、幅広く情報を吸収するように心掛けている。政治・経済・社会・時事問題から文芸書まで。また、ベストセラーや話題の書にも一応は目を通すようにしています。ですから、自ずと常に何冊もの異なる分野の本を同時に読んでいることが多い状態になっています。

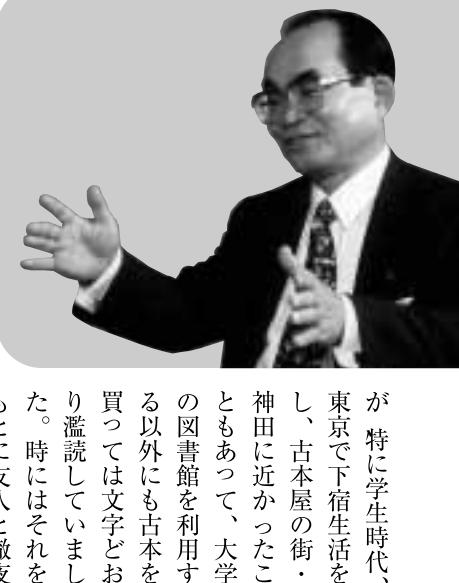
市長はとても読書がお好きだと聞いていますが、子どもの頃からそうだったのですか？

子どもの頃は、スポーツが好きでしたから、昼間は友だちと野球をしたり色々な遊びで戸外を走り回っていました。それほど本好きの少年というわけではありませんでしたが、結構いろいろな本を読んだり見たりしていたように思います。

いつ頃から読書に親しむようになったか？

中学・高校と少しずつ読書が楽しくなりました

読書で人生を豊かに



戸外では虫たちがその美声を競い合う秋の夜長、書物に親しむには絶好の季節がやってきました。今回は、榎本禪兼京都府市長にご自身の読書のことや図書についての想いなどをインタビューしました。

を実践することが重要だと思います。

読書活動の推進には図書館も大きな役割を担っていますが？

昨年、京都市図書館は設立二十周年の節目を迎え、私にはとても感慨深いものがあります。図書館設置当時は五館からのスタートで、私はその時、教育委員会の総務課長でしたが、全国で初めて民間活力を導入する財團委託や、一行政区一館を目標にした図書館整備計画に携わり、現在全市で標を大きく上回る十九館を設置するに至っています。

が特に学生時代、東京で下宿生活をし、古本屋の街・神田に近かったことともあって、大学の図書館を利用すると外にも古本を買つては文字どおり濫読していました。時にはそれをもとに友人と徹夜で議論を戦わせたり…。あの頃が懐かしく思い出されますね。

昨年「子どもの読書活動の推進に関する法律」が制定されるなど子どもの活字離れが心配されていますが？

法律で読書の推進を謳わなければならないのは少々残念なことです。今日の多様なメディアの発達の中で子どもたちの活字離れが進む現状から、本市では他都市に先駆けて、去る四月に「京都市子ども読書活動振興市民会議」が発足しました。現在、保護者・市民ぐるみで読書活動振興策に関する活発な議論が行われており、大変心強く感じております。

学校での読書指導も大切だと思いますが？

市立小学校では、ほぼ全校で朝の十分間読書等の活動が行われていますし、学校図書費の増額により児童書も充実してきています。また地域でのボランティアの方々による文庫活動等も活発に行われています。本好きな子どもを育むために、今後とも家庭、学校、地域社会が一体となった取組

忙しい毎日の中で読書は、楽しみでもあり、気分転換でもあり、勉強もあります。何を読もうか迷うほど出版物で溢れる今日、如何に自分に適したものを選択していくかも大切だと実感しています。そういう知識や感性を養うためにも市民の皆様に、図書館をどんどんご利用いただきたい

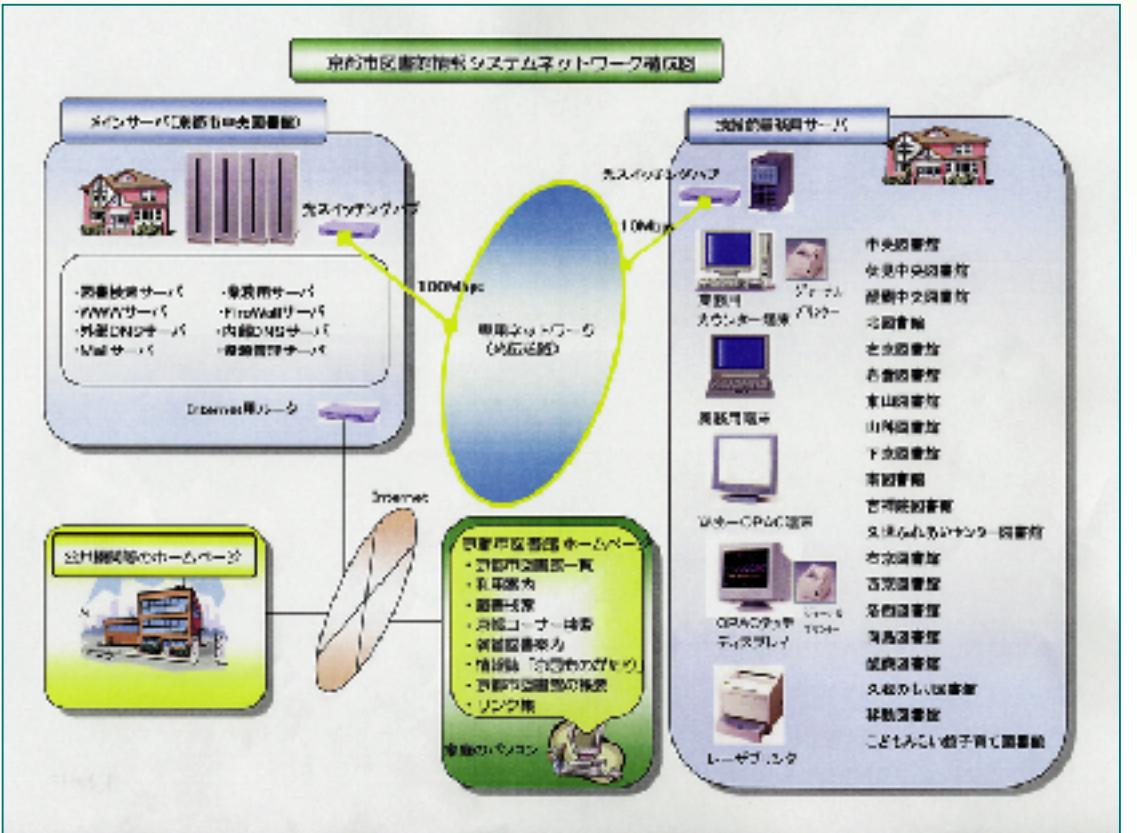
京都市図書館の新コンピュータシステムが稼働!

全市19図書館が ひとつの図書館に

- 全市十九館がネットワークに
- 「「じじかねりやす 京都市図書館へ」」が新たに「コンピュータネットワーク化されました。これまで京・ライブラリーネットで結ばれた京都市図書館十八館では、どの館からでも全館の蔵書検索ができ、予約・取寄せ・貸出・返却ができるましたが、このサービスが子育て図書館や移動図書館でもご利用できるようになりました。
- 利用者用図書検索機(OPAC)が便利に
- 光ケーブルの使用で検索スピードが向上し、時間がかかる場合は途中で検索中断ができるなど、全館の資料が効率よく検索できるようになりました。検索項目もタイトルや著者名に加えてキーワードによる検索、またそれらを組み合わせた複合検索、さらにはジャンル別検索など多様な検索ができます。また、ガイドスも大人用・子供用・英文から選択できるようになつています。

京都市図書館ホームページトップページ

京都市図書館ホームページ
URL <http://www.kyotocitylib.jp/>
(iモード) <http://www.kyotocitylib.jp/i/>



九月下旬から十月初旬にかけての全館一斉の臨時休館を経て、京都市図書館情報システムの再構築が完了し、十月九日から新しいコンピュータシステムが稼働しました。臨時休館中は、皆様に大変ご不便をおかけしましたが、専用の光ケーブル使用によるネットワーク全体の処理速度の向上やインターネットによる全館の蔵書情報の発信など、大幅な改善が図られました。今号では、生まれ変わった京都市図書館の新しく開始したサービスや、新システム導入でこれまでと取扱いが変わった点など、主な内容をご紹介します。

〈取扱いの変更〉

○図書館カードは全館で一人一枚に

利用いただける図書館カードは、京都市図書館全十九館で一人につき一枚に限り有効となります。お手元に一枚以上の京都市図書館カードをお持ちの方は、いずれか一枚を選んでいただく手続きが必要となりますので、最寄りの図書館のカウンターにお申し出ください。

○貸出は一人十冊・二週間以内に

図書館資料の貸出数は、有効な図書館カードが一人一枚になることに伴い、各図書館一人五冊以内から、京都市図書館全館で一人十冊以内（うち視聴覚資料は二点以内）二週間までに変わりました。また、障害のある方への特別貸出は、全館で一人二十冊以内（うち視聴覚資料は四点以内）一ヶ月までになります。

○名館で所蔵する雑誌及びコミックについても、予約や継続貸出ができるようになりました。

*取扱いていない館が一部あります。また、中央図書館では、雑誌のバックナンバー保存のため貸出は行つていません。

〈新たなサービス〉

○インターネットで蔵書検索

新たに各館の新着資料一覧が表示でき、各自の資料の詳細情報が見られるようになりました。小型プリンターの設置により、検索結果（資料の詳細情報画面）をレシートに印刷して活用いただけるようになりました。

○インターネット接続の図書検索機を新設

全館にインターネットに接続したキーボード入力方式の利用者用図書検索機（Web-OPAC）を設置。これにより京都府立図書館はじめ府下図書館、近畿の主な公共図書館、政令指定都市立図書館及び国立国会図書館のホームページにアクセスして蔵書検索ができるようになりました。

○貸出内容がレシートに

図書館資料をお借りただくときに、返却期限の印刷されたりをはさんでいましたが、貸出カウンターでその都度、詳しい貸出内容（書名、貸出冊数、返却期限等）が一日でわかるレシートを印刷してお渡しできるようになりました。

○京都新聞をCD-ROMで検索

全館にCD-ROM検索用のパソコンを配備し、「京都新聞電子縮刷版」（2000年1月分からの創刊）が検索できます。ただし、内容のプリントアウトはできません。詳しくは各館のカウンターにお問い合わせください。



印刷できる図書検索機

の他にも、全市十九図書館が一体となつて、ご利用いただく皆様に愛され親しまれる図書館、より利用しやすい図書館づくりをめざして様々なサービスに努めています。詳しくは各館のカウンターでお尋ねください。

読書の秋、生まれ変わった京都市図書館にぜひとも足をお運びください。

京都市図書館 紹介

1 醍醐中央図書館

「視聴覚資料が充実！ 人にやさしい図書館」



醍醐中央図書館 視聴覚ブース

京都市の南東部に位置する醍醐の地は万葉の時代から交通の要衝として開け、京都・滋賀・奈良に通じるいくつもの街道が交わり数々の史跡が残されています。古くは中臣遺跡に始まり、平安時代には貴族の別荘地として栄えた日野は親鸞上人誕生の地でありますし、上醍醐寺は修驗道の山・聖域として今なお信仰を集めています。

醍醐、村上、朱雀の歴代天皇より手厚い保護を受けた醍醐寺は豊臣秀吉が花見の宴を催したあります。上醍醐寺は修驗道の山・聖域として今なお信仰を集めています。

ことで知られ、醍醐一帯には歴代の天皇陵や醍醐寺・三宝院をはじめとする古刹、名刹が数多くあります。

昭和五十七年にこの地に誕生した醍醐図書館は地域の文化活動の中心として地元の方々に親しまれ、また、視覚障害者に対する対面朗読を実施するなどユニークな活動を行ってきました。

平成九年、地下鉄東西線の開通にあわせ、醍醐駅の上に商業施設パセオダイゴローを建設し、その西館四階に山科醍醐地域の中核となる大規模な図書館をオープンすることとなりました。これが醍醐中央図書館です。

当館の特徴としましては、京都市図書館としてははじめて視聴覚資料（ビデオ・CD・LD・DVD・カセットテープ）を所蔵し、貸出（LD・DVDを除く）をはじめ、館内視聴用にブースを二十一席完備しており、子どもから大人まで連日多くの方に利用されています。さらに、皆様に、より図書館に親しみをもつていただきために、子どもを対象としては月一回のお楽しみ会を、また、大人の方向けには名画上映会などの行事を開催するなど担当職員もさまざま企業づくりに努力しています。

今後とも多数の方のご利用をお待ちしています。

京都市図書館 紹介

2 左京図書館

「親しみやすく、使いやすい図書館」

京阪電車「出町柳」駅から川端通りの高野川べりを北へ約八百メートル歩く、蓼倉橋（人だけ通れる橋）を東へ入ったところに左京図書館があります。図書館に来るならこのコースがお勧めです。高野川べりを歩くと周りの景色が季節を感じさせてくれるからです。特に桜の開花の時期は、車もスピードを落とし脇見運転するほどの見ごたえです。冬は冬で雪化粧をした比叡山と北山が「山の美」を感じさせてくれます。また、京の夏の終わりを告げる「大文字五山送り火」。先祖の靈をお送りするこの伝行事は夏の京には欠かせない風物詩となっています。

こんな良い環境の場所に移転開館してから三年が経ちました。

場所が良かったのか移転後の利用状況も安定し、年間の貸出冊数が三十五万冊を超えます。

本一冊の厚みを一センチと考えてこれを積み上げると富士山の高さに匹敵する高さになります。読む本の量としてはかなりの数字だと思います。もちろん京都市の地域図書館のなかでは最もよく利用されている図書館として定着しています。

お客さんから「親しみやすく、使いやすい図書館ですね」と声をかけられるのがなによりも



左京図書館 絵本コーナー

うれしく思います。館内に入るとまず絵本が目に飛び込んでくるような書架配置をしたり、絵本コーナーの床を「アトピー対策に良い」と地域の方からのアドバイスにより、コルクタイルにするなど、行政主導ではなく地域の人たちの声を聞いて建設したのが左京図書館の自慢です。図書館を利用する地域の方々が、図書館をどう考え、何を求めているのかを計画に反映できたことが「親しみやすく、使いやすい図書館」として地域の方に愛されているのだと思います。また、利用者が使いやすい図書館は、職員にとっても働きがいがあるということになります。

「一度も図書館に行ったことがない」という方、「誠実・さわやか・スピード」において明るい左京図書館にお立ち寄りください。平日は夜七時半まで開館しています。

お知らせ

京都市子ども読書活動振興 市民会議第一回会議を開催

京都市では、読書量が減少し、子どもたちの活字離れが指摘される中、読書と生活がどう関わっているかを観点に、家庭、地域、学校それぞれの視点から子どもたちの読書に対する意識や行動の実態・現状を把握し、子ども読書活動振興への基礎資料と zwarためのアンケートの実施に向けての議論が行われました。続いて分散会形式で、子ども読書活動の推進についての意見交換などが行われました。

「市民会議」では、アンケートで得られた結果を基に、本が大好きで感性豊かな子どもを育むため、市民の皆様のご意見をふまえて、子ども読書活動振興に向けた意見交換や活動を行ってまいります。



会議風景

司書という仕事

書
1
コ
ム

司書という仕事を選んで、「本が好きなのがね」と周囲の反応。「本が好き」、大正解。でもそれだけではないのです。

例えば。

一日の返却冊数、多い時には約2000冊。文庫本だと片手に40冊(100g×40冊=4kg!)持つて、書架に返本して疲れ果てていても、貸出冊数が記録を更新したと聞くと、ぐく單純に『やった!』と思します。

書庫の新聞縮刷版一年分、2kg×12冊=33.6kg。何回かに分けて抱えて階段の上り下りをして息が切れてしまつても、ご希望通りの資料を提供できて喜んでもらえた時には、こちらまで嬉しくなってしまいます。

あまり貸出のないまま書庫に入る本がある時は、悲しくて本に対しても利用者に対しても『ごめんなさい』と謝りたくなります。反対に書庫から久々に借りられていく本を手渡す時、本には「良かつたね」と声を掛けたくなるし、利用者には『お役に立ててください、ありがとうございます』という気持ちです。

そんな時々、「本が好き」だけなのではなく、「本と人をつなぐ」その仕事が好きで、その仕事が司書なのだとと思うのです。資格が必要な仕事が人気の今、司書になりたい、興味がある、という方も多いのではないかでしようか。司書希望の皆さん、「本が好き」なことも重要です。でもそれ以外にも大事な要素がたくさんあります。

このコーナーでは、司書はもちろん図書館に関わる様々な仕事、本などでは判りにくい図書館の仕事の裏側などを、少しづつ紹介してゆく予定です。ご質問・ご感想など、ぜひお寄せください。

声

利用者の声

左京区

鳥丸 晴一さん 無職

岩倉図書館は建物も、図書も新しくすごく綺麗で清潔です。私たち利用者もマナーを守つてこれを維持し、協力せねばと思います。

前回の創刊号に利用者の方が「本は心のゴチソウ」と書いておられました。私は時代小説をよく読みますが、ただ筋を追うだけでなく、作者が書いた一字読みにくい叙述、熟語そこに出ている自分の忘れかけた漢字を指でなぞっては復習しています。本は私にとって「心の御馳走」です。

下京区

仲野 信子さん 会社役員

図書館が好きです。
本を読むのが好きです。

小学生の時先生から頂いた年賀状に「何時までも本の虫でいる様に」と書いて頂いた事があつて、その時が「私は級友より読書好きなのか」と意識したはじめての記憶です。

通学していた修徳小学校の跡地が下京図書館になつて、調べ物に、楽しみに利用させて頂いています。不思議なご縁と言うべきか、有難い事と感謝している昨今です。

西京区

有田 久子さん 無職

司馬遼太郎さんの『独学のすすめ』に、図書館と古本屋の二つさえあれば十分だとあります「なるほど」と思います。

閲覧室に男性が増えました。本好きの人の中にいると、豊かな悠々たる世界をそれとなく感じ、みんながいとおしくなつてきます。

今年のスタートは、六十年前に読んだ『良人の貞操』に再会し、吉屋信子さんの淫刺とした息吹きに青春が甦り、うれしさ一杯でした。

本はまるで玉手箱みたい、宝石きらめく御代の御宝といえましょう。

こどもみらい館子育て図書館がオープンしてから十二月で満三年をむかえます。幼稚園の年中だった娘が今年は一年生になりました。その間にすっかり娘はここへ行くことが、一番の楽しみになりました。たくさんの中を借りられた。たくさんの中を借りられたことはもちろんですが、その他にも紙芝居やお楽しみ会、数々の催物にも参加させていただき一日中遊ばせてもらつてることもありました。そのうえ子育てのための情報や相談まで出来て、私たちの生活にはなくてはならない場所となっています。

伏見区

菅原 雅子さん 学生

私は幼い頃から、よく夏休みなどに宿題やレポートの参考にするため図書館を利用していました。調べたいことがあると必ず答えを見つけることができる本にめぐり合うことができ、そのたびに図書館に所蔵されている本の種類や量の多さに驚いたものでした。

今では多数の図書館がネットワークで結ばれ、以前と比べ本を探すのも容易になつてきました。これからもずっと図書館を利用していきたいと思います。

京の図書館は新たな成長を始める 後記

京の図書館は新たな成長を始める

図書館の本の間からは、時々「化石」が発掘されます。「平成五年五月一日」とか「昭和六十二年八月三十日」とか、きちんと記されていますので年代の特定は簡単です。そうです。返却しあります。

京都市中央図書館の場合、開館は昭和五十六年四月十三日。それ以降、脈々と使われ続けてきた返却しおりは、色・様式とも約二十年間変更されていませんでした。でも、この度の新しいシステムの導入に伴い、返却しおり自体が無くなることになりました。このように十月からは、幾許かの古いものや使い慣れたシステムが、利便性の代わりに姿を消すことになります。長く図書館を愛し、従来の方法に親しんでいた方々には、色々とご不便をおかけすることになりますが、成長し変化し続ける図書館を、どうぞ見守ってください。

図書館は成長する有機体です。古い細胞は次々代謝されてゆきます。でも、新しいものは旧来のもののに立脚します。古い機能は新しい図書館の機能の中に溶け込んで、蔵書の中に降り積む人間の想いと同様に、決して消えるのではないと思います。

図書館の本の間の「化石」も、どんどん希少価値が高くなることでしょう。みつけられたら、ほんの少し、往時のことどもを懐かしくなってください。

京図ものがたり
きょうと
vol.2

平成14年11月発行

編集・発行 (財) 京都市生涯学習振興財団 京都市中央図書館
〒604-8401 京都市中京区聚楽廻松下町9-2
TEL 075-802-3133

本誌は資源の有効活用のため再生紙を使用しています

京図ものがたり Vol.2